1977年12月3日第三種郵便許可（毎月18回1・2・3・5・6・7の日発行）2023年9月6日発行　SSKP通巻8220号

社会福祉法人
万葉の里

秋　号

2023年10月
通巻075号

SSKP ことのは

特集 継続は力なり
～実践研究・実践報告会の取組～

こちらもぜひチェックしてください！

右のQRコードを読み取ると、法人ウェブサイトに移行します。https://www.manyounosato.or.jp

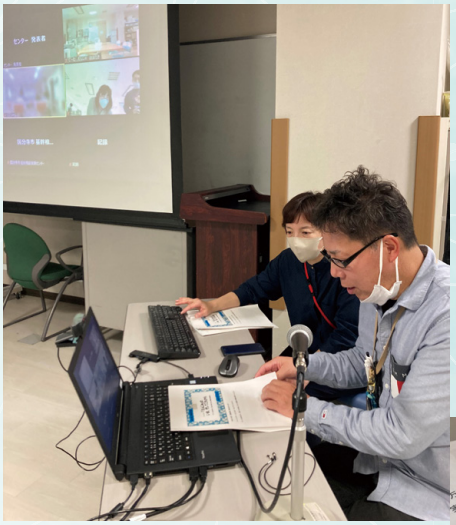
（紙面では、コロナ禍以前に撮影した写真や撮影時にマスクを一時的に外している写真等を掲載していますのでご了承ください。）

1977年12月3日第三種郵便許可（毎月18回1・2・3・5・6・7の日発行）2023年9月6日発行　SSKP通巻8220号

特集

継続は力なり

実践研究・実践報告会の取組



発表することとなった部署は、テーマについて講師を招き研修を行う、他法人を見学する等、約８カ月かけて取り組みます。一番大変な作業は、パワーポイント資料作成かもしれません。

発表者がまとめた計画書、パワーポイント資料、参加職員の感想をまとめ、毎年報告書を作成しています。職員からの感想は、取り組んだ後の振り返りに役立ちます。

「実践研究・実践報告会」は、平成27年度より始まり、令和４年度までの間で30テーマ、延べ150名近い職員がこの企画に取り組みました。国分寺市障害者センター前管理者の坂田晴弘氏が、平成27年度の報告書に以下の言葉を残しています。

「日ごろの支援を振り返り、今まで知らなかった実践や技術に触れることで、新たな支援の可能性が広がり、その中から自分たちが目指し実践していることを関係者や地域の方に知っていただく。そのことで、利用者が地域で生き生きと暮らすことに繋げていきたいと考えています。そのためにも、継続して実施できるように、今後も努力してまいります」と。その言葉とおりに、８回目を迎えることができ、「継続は力なり」と感じます。

回を重ねる中で、「実践研究」というよりは「実践報告」の色彩がより強くなりつつあるのではとの議論から、平成31年度より現在の名称「実践研究・実践報告」へと変わりました。手探りで始まったこの取組ではありますが、目的を以下の3つに整理し取り組んでいます。「日々の支援を説明する」「新たな支援に挑戦しアピールする」「専門職としての力を磨く」。今後、この取組がどう変化するのか、そして、職員一人ひとりにどのような影響をもたらすのか、それらを期待しつつこれからも取り組んでいきます。

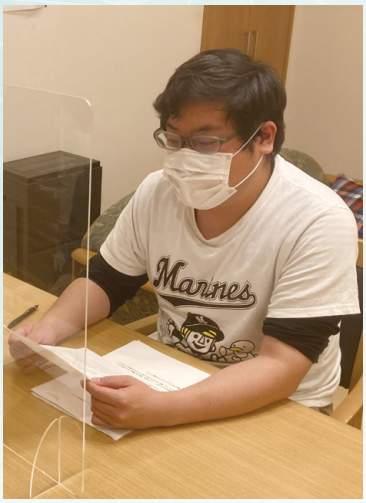
実践研究・報告会
～これまでのテーマ等について～

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
●自閉症を知る ●障害者の高齢化～現在・そしてこれから～ ●発達障害について～ご本人を理解するために～	●地域資源のアセスメントと活用 ●地域との交流～地域活動について～ ●行動障害のある方の支援に取り組んで ●平成27年度に基幹相談支援センターに入ってきた相談の傾向を分析する	●地域活動への参加とその効果 ●一人暮らしへの支援 ●自閉症の方への支援に取り組んで ●就労支援の実践研究報告～表面的なニーズではなく、潜在的なニーズを引き出すための実践～ ●基幹の果たしている機能～相談実績からの分析～	●地域活動支援センターつばさで自信をもって働くには ●基幹の果たしている機能～相談実績からの分析～ ●働くまでの道のり～自分を見つめ直して	●3つのグループが一つになったパーテーション開放　～新たな発見を求めて～ ●理念を形にすること～Aさんの支援を通してみえたもの～ ●基幹の果たしている機能 Part3～他者評価からの分析～ ●グループホームにおける余暇支援について	●時間欠乏症を解消する取組～時間効率の改善と支援の向上～ ●基幹相談支援センターの実践の展開 ●働くまでの道のり～第2章　ともに歩もう～

1977年12月3日第三種郵便許可（毎月18回1・2・3・5・6・7の日発行）2023年9月6日発行　SSKP通巻8220号

Interview

実際に研究・発表に取り組んだ、ケアホームこの葉の鵜澤（うざわ）職員に話を聞きました。



Q ケアホームこの葉が実践研究を行うこととなった経緯を教えてください。

当時、ケアホームこの葉（以下、この葉という。）が開所して、5年目を迎えるタイミングでした。当初は利用者、職員ともに、「この葉での生活の安定」が大きな目標でした。時間の経過とともに、利用者、職員双方の頑張りによって「安定した生活ができている」と思えるようになり、次のステップとして、利用者一人ひとりへの掘り下げた支援を模索するようになりました。この葉の職員として、何を優先する必要があるのかを皆で考え、実践研究の場で検討を行いました。

Q 研究テーマ設定の理由を教えてください。

それまでも、日々の支援の振り返りは行っていましたが、「入居当初からの利用者の変化」という長期的な面での振り返りは行っていませんでした。そのため、一人の利用者に焦点を絞り、入居から現在に至るまでの利用者の変化や支援内容を振り返り、これまでの支援の「見える化」を目標とし、テーマを設定しました。

Q 実践研究から得られたことについて教えてください。

「立ち止まって振り返ることの大切さ」をあらためて実感しました。支援は積み重ねであり、適切な関わりは日々変化するものだと考えています。取組を始めた意図や、その結果がどうであったか、支援による変化などを、立ち止まって振り返ることができたと感じています。また、これまでの支援を見直したことで、職員が支援の意図や目的を明確に説明できるようになったことは、大きな成果だと感じています。

Q その後、研究から得られた成果をどのように活かしましたか？

現在この葉では、入居前の状況や、これまで行ってきた支援について、職員間で会議の場での情報共有を行っています。職員の入れ替わりはあるもので、利用者の現在しか知らない職員もいます。過去を知り、それを職員の共通認識とすることで、明確な根拠を持って支援を行うことができると考えています。利用者の皆さんには、それまで積み重ねた人生があり、そのすべてを知ることは難しいですが、「今に至るまでの経緯を知る・知ろうとする」という姿勢は支援者にとって必要なことだと思います。これらのことは実践研究によって気づくことができました。

Q 実践研究での取組を終えて、鵜澤職員の今の思いや考えについて教えてください。

職員は皆、利用者本位のより良い支援の為、悩み、苦しみながら、試行錯誤して取り組んでおり、その積み重ねにより現在の利用者の生活があるのだと思います。それは、利用者の方々のもつ「力」によって得られた部分も大きいですが、それと同じ位、職員の「頑張り」も大きく関係していると思います。立ち止まって振り返ること、そして自分たちの頑張りを評価すること、この二つをぜひ実践研究の場に限らず、日々の支援の中でも意識していきたいです。

※鵜澤職員が取り組んだテーマ（表★❶／★❷）

令和３年度	令和４年度
●地域をベースにした実践を考える ●利用者本位の支援を探る～パーテーション開放からのステップアップ～ ●社会福祉法人万葉の里～法人設立に込められた想い～ ★❶短期入所事業を『体験機会の場』にするために	●はばたきの取組～あなたの『やりたい』『なりたい』にこたえたい～ ●ショートステイえんじゅの今そしてこれから～データ分析を行い受け入れ枠を工夫した取組の実践報告～ ●基幹10周年事業の振り返りと展開～基幹キャラクター『とわぷる』の誕生～ ★❷一人の利用者の変化を通してケアホームこの葉の支援を振り返る

1977年12月3日第三種郵便許可（毎月18回1・2・3・5・6・7の日発行）2023年9月6日発行　SSKP通巻8220号

万葉コレクション Collection

働く夢を応援する場

就労継続支援事業Ｂ型 どーむ

夢をもって働く！　つながりを大切に

「就労継続支援事業Ｂ型どーむ（以下、どーむという。）」は、様々な障害のある方が「喫茶」・「スイーツ作り」・「清掃」の３つの仕事を行っています。仲間同士の協力や交流といったチームワークを通して、仕事をすることの楽しさや喜び、責任感を持って働くことを大切にしています。

初代理事長は「喫茶は障害者センターの顔である」と言いました。喫茶いずみは障害者センターの入口すぐにあり、いずみプラザでの健診後にお子さんと一緒に立ち寄ってくださるお客さま、喫茶いずみの日替わり弁当を毎日のように買いに来てくださる地域のお客さまなど、様々な方にご利用いただいています。利用者さんは、フロアと厨房に分かれて働き、商品はお客さまの口に直接届くものであるため、常に衛生面に気を配りながら仕事にのぞんでいます。

スイーツ作りは、地域の中に工房を構え、無添加・無着色の安心・安全なお菓子の製造・販売を行っています。スイーツのお菓子は、工房での直売や喫茶いずみでの販売のほか、「東京経済大学」の学生さんと定期的に会議を行い、学内の生協や大学構内での販売も行っています。そして、昨年12月には、「※国分寺障害者施設お仕事ネットワーク」の障害者週間の取組として、ｎｏｎｏｗａ西国分寺に初出店しました。そこで、「仕事帰りだと閉まっているので買えなかった」「いつも買っています」というお客さまの声を伺いました。地域のイベントを通じ、多くの方に「どーむ」を知っていただくことが、これからの地域交流にとても大切なことだと思います。

清掃作業は、主に市役所と市内の公園トイレの清掃を行っています。清掃は１年間を通して仕事があり、市役所清掃では、職員の方が仕事をしている中、声をかけながら掃除するなど、決して楽な仕事ではありません。しかし、自分たちがきれいにした場所を市民の方が使用することを思うと、やりがいのある仕事だと感じます。

新型コロナウイルス感染症の影響を受けさまざまな活動が縮小されましたが、利用者の皆さんと意見を出し合いながら、自分たちができることを取り組んできました。これからも、地域の皆さまとのつながりを大切にし、利用者の皆さんが住み慣れた国分寺で、自信や夢をもって、いきいきと働くことを応援します。

（通所支援２課長　山邉 泰子）

就労継続支援事業Ｂ型とは
通常の事業所に雇用されることが困難であり、雇用契約に基づく就労が困難である方に対して、就労の機会や生産活動等の機会の提供、また、その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援を行う。

※国分寺障害者施設お仕事ネットワーク（略称：国分寺お仕事ネット）とは……
「国分寺市内に活動拠点を持つ障害者が働く事業所や協力団体の集まりです。障害者の方々の生活向上のため、「仕事の拡充」と「工賃アップ」を目指し、共同受注に取り組む活動などを行っています。

1977年12月3日第三種郵便許可（毎月18回1・2・3・5・6・7の日発行）2023年9月6日発行　SSKP通巻8220号

就労継続支援事業B型どーむ

（令和５年４月１日現在）

対 象 者：市内在住で、知的・身体・精神障害があり、訓練等給付の支給決定を受けている方

対象年齢：18 ～ 65 歳

開 所 日：月～土曜日（祝祭日を除く）

開所時間：９時半～ 16 時（シフト制）

定　　員：10 名

あゆみ

平成15年 4月	国分寺市障害者センター開所「心身障害者（児）通所訓練事業喫茶いずみ」として事業を開始
平成18年 4月	「スイーツいずみ」としてアパートの一室を借りて菓子製造を開始
平成21年 6月	制度移行により、「就労継続支援事業B型どーむ」と事業名を変更
平成22年 4月	移転し「洋菓子工房　スイーツいずみ」として、菓子製造と販売を開始
平成23年 11月	「第５回チャレンジドカップ　菓子部門」で最優秀賞である大賞を受賞

午前中は、喫茶ランチタイムの準備で大忙し。食材とおもてなしの準備を整えます。

大学構内の販売では学生や教職員の方が購入してくださり、確実に認知度を高めています。

お菓子の決め手となる生地作り。心を込めて仕上げていきます。

東京経済大学の学生さんとのコラボ会議の様子。コロナ禍では、Zoom で行っていましたが、３年ぶりの対面での会議となりました。

喫茶いずみ

ホッと一息できる空間で、日替わり弁当やドリンク・スイーツなどがお召し上がりいただけます。

喫茶いずみとスイーツ工房のメニューとアクセスについては、QR コードを読み取りください！

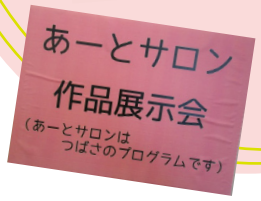
スイーツ工房いずみ

シフォンケーキをはじめ、レモンケーキ・フィナンシェ・焼きドーナツ・クッキー等洋菓子を中心としたラインナップをご用意しております。

1977年12月3日第三種郵便許可（毎月18回1・2・3・5・6・7の日発行）2023年9月6日発行　SSKP通巻8220号

Let's enjoy life and art together !

Let's



万葉の里の関係機関・団体の方々にスポットをあててインタビューを行うコーナー「Let's（レッツ）」。第４回は、「アートと福祉をつなぐ活動」を障害者センターにとどまらず、地域で実践している、「美術家」の中村弘子（なかむらひろこ）さんに、活動を展開することになったきっかけや思いを伺いました。

アートと福祉をつなぐ活動に関わることになったきっかけ

もともと、建物にモザイクや壁画、ステンドグラスの装飾をする仕事をしていた時に、その建物を使っている人に関心を持ち、一緒に活動できると楽しいだろうと思いました。その後、イギリスで、アート教育を受けた人が教会を拠点に、障害者・刑務所から出た人・生活困窮者といった生活が困難な人を集め、アートや音楽を教えて社会に出るきっかけをつくる社会奉仕活動を見学しました。

他市でＮＰＯ法人を立ち上げ、障害のある方と関わり、「自由な時間をどう過ごすのか」ということが生活や活動の場が限られていて、社会参加の機会や選択肢が少ない中での、長い一生のテーマになると感じました。アートを通して一生続けられる趣味を見つけるきっかけをつくりたいと思いました。

太陽創作の様子。この時のモチーフは季節の花。
モチーフを表現できるよう、利用者は補助具を活用します。

つばさのアートサロンと太陽の創作活動

つばさのアートサロンでは、自分が心地よく過ごせること、集中することを体験し、喜びや楽しみを見つけてほしいと思っています。続けたい人は続け、やりたくない人はやめていい。皆さんのほうから質問を受けることも多いです。質問することは、自分の中でこうしたいというものがあり、その確認をしていると思います。「あ、この人は集中して取り組んでいるんだ」と感じられるとうれしいです。

太陽では、絵を描くことを経験してほしいと思っているので、モチーフを用意しています。絵を描くにあたり、どの色を使うか自分で選べるように、全部の色をパレットに出しておきます。慣れてくると、使いたい色を、自分で選べるようになります。

つばさの参加者が集中して絵を描いている時や自分で筆を持てない太陽の利用者が、ふっと筆に目がいき、筆の動きを目で追っているのに気づいた時、とてもうれしいです。

つばさアートサロンでは、利用者が集中して描く一方で話しやすい雰囲気作りをしています。

アートはつながりを作り人生を豊かにする

例えば、地域の絵画サークルに入ることは気がひけると思う人がいます。絵を描くことが習慣になっていたら、また、参加することに慣れていれば、中に入りやすいかもしれません。

趣味を持つことは自分の居場所を見つけることにつながります。人と関わることが苦手でも、紙とペンがあれば、どこにいても自分の世界に集中することができ、居場所にすることができると思うのです。「絵が描ける・描けない」ではなく、アート活動に参加することで、社会とつながりを持てるようになります。

自分の履歴書の趣味の欄に絵画と書いてもらえることが、私の最終的な目標です。「創作活動をやりましょう」という看板を置いて、待っていますから、「どんなものか」と一度のぞきに来てください。

1977年12月3日第三種郵便許可（毎月18回1・2・3・5・6・7の日発行）2023年9月6日発行　SSKP通巻8220号

うぃず

職員リレー紹介

南（みなみ）　千穂（ちほ）
通所支援2課 就労継続支援事業B型どーむ
勤続年数：16年
好きな言葉：八面玲瓏
趣味：ピクニック

万葉の里で、太陽、どーむ、えんじゅ、つばさとさまざまな部署に在籍し、多くの方と出会い過ごした時間は、私にとって宝物です。

まちを歩いていると、時々落とし物を見かけます。小さい子の物だと、少し高いところに置かれていることが多く、“汚れないように”と込められた優しい想いを感じます。SDGsを謳った歌詞に『僕らは求めるものも　描く未来も違うけれど　手と手を取り合えたなら　きっと笑いあえるから　僕にはいま何ができるかな』というものがあります。手と手を取り合うために『僕にはいま何ができるかな』は、私が大事にしてきた想いと同じです。

どんな世の中でありたいのか、後世に残したいのか、これからも専門職として、市民として歩んでいきたいと思います。皆さまとともに。

須田（すだ）　光子（みつこ）
地域支援1課 地域活動支援センターつばさ
勤続年数：3年
好きな言葉：生きているだけで丸儲け
趣味：自然の中を歩くこと

前職はケアマネジャーをしていたのですが、定年を迎え今後のことを考えていた時、電話のベルが鳴りました。

センターの方からのお誘いの電話でした。センター近くに引っ越したこともあり、これは何かのご縁かと思いお世話になることを決断。というのも、30代の頃国立や立川の自立生活センターや当事者の方々が立ち上げた24時間365日対応の訪問介護事業所で働いた経験があったからです。泊まり込みの介助や行政との交渉、カラオケパーティーの同行など、貴重な体験をさせていただきました。その時に感じたこと、考えたことが私の原点になりました。

ケアマネジャーはどちらかと言うと、ひとり仕事でしたので、今つばさでいろいろな方にカバーしていただき、チームワークを学ばせていただいています。利用者さん、スタッフに感謝！ これからもよろしくお願いします。

弾正原（だんじょうばら）　あかね
事務 総務担当
勤続年数：15年
好きな言葉：Keep Smiling
趣味：ダンス＆サッカー（観る専門）

事務の仕事はずっとパソコンに向かっているイメージがあると思いますが、実際は電話や窓口対応、給食対応、関係機関や業者とのやり取りなど毎日たくさんの方と顔を合わせます。利用者さんだけでなく職員や外部の方との関わりも多いのは事務の仕事ならではだと思います。

私は、「一日一笑」を心がけています。笑顔で挨拶・対応すること、利用者さんや同僚とのちょっとした会話ややり取りでニコッとすること、時には一緒に楽しんで大笑いすること…笑いは相手や自分の心に元気や優しさを与えられるものではないかと思います。

関わっている方々とともに時間を過ごしながら、「一日一笑」の積み重ねをこれからも続けていきたいなと思っています。そして万葉の里がみなさんにとって安心して過ごせる、明るく優しい雰囲気であれたらと思います。

次回は藤木佑介（ふじきゆうすけ）さんの紹介です

次回は青木佳子（あおきよしこ）さんの紹介です

次回は赤石直子（あかいしなおこ）さんの紹介です

1977年12月3日第三種郵便許可（毎月18回1・2・3・5・6・7の日発行）2023年9月6日発行　SSKP通巻8220号

いやしけ吉よごと事 ～いいことがありますように～

実践研究・実践報告会はどのようなきっかけで始まったのだろうか。きくところによると、武蔵野市にある社会福祉法人「武蔵野」が実践研究をすでに取り組まれており、初代板山理事長が「ゆくゆくはうちの法人でもこのような取組ができるといいね」ということを受け、平成27年度から取り組み始めたとのことでした。

実は、私が理事長に就任し、実践研究・実践報告会を当法人で行っているということを知り、まず感じたのは『凄いな!!』ということでした。というのも、これまで私が実践研究・実践報告を行っている法人として知っていたのは、練馬区にある経営規模の大きい高齢系施設等を運営している法人のみだったからです。私もその法人の評議委員を務めていたので報告会に参加しましたが、報告会は職員以外の人も参加できる形で開催されており、実践研究はもとより、日頃の自分達の活動の周知やアピールの場としても活かしていました。そのような意味からも、毎年行われている当法人の実践研究・報告会は、『果敢な挑戦!!』と言っても良いのではないでしょうか。

私は、これまで令和3年度、令和4年度の2回、8部署（チーム）の実践研究・実践報告会の場に参加しました。報告会を通じ、研究に取り組む部署（チーム）が、テーマの設定から研究計画書の作成、研究開始、発表資料の作成、発表のリハーサルなど報告会に向けて、8か月ほどをかけ、テーマに掲げた日々の支援で抱えている困難な課題に対してどう解決したらよいか真摯に取り組んできた様子を垣間見ることができました。

日頃、自分が携わっている仕事を口頭で説明するのは意外と難しいものです。実践研究・報告会までの過程で得たものや報告の場を通じて、自身が行っている日々の仕事を振り返り、説明できる力、アピールする力、チャレンジする力、専門家の役割を磨く場として活用すること、そして、そのことが、法人全体の力量アップにも繋がります。『継続は力なり』です。果敢な挑戦を続けていきましょう!!

（理事長　室地　隆彦）

編集後記

「研究」という言葉を聞いて、どのようなイメージを持つでしょうか。大学や研究所の中で、たくさんの本や研究機器に囲まれている姿でしょうか。「実践研究」は、多くの方にとって聞き慣れない言葉であったかと思います。個別性が高い支援の実践と、ひとつの真実を追究する研究という取組が、どう両立し、支援に活かされてきたのか。イメージとは異なる職員の姿がそこにあったかもしれません。特集記事を通して、8年間の取組の一端を知っていただければと思います。

（広報委員会）

★「法人設立20周年記念行事ボッチャ大会」ご報告

法人設立 20 周年を記念して3月 22 日（水）、28 日（火）の2日間、ボッチャ大会を開催しました。障害者センターや KOCO・ジャムに通所されている利用者から、日頃は通所事業を利用されていないグループホームの利用者まで、万葉の里に関わる多くの方が参加し、交流する機会になりました。また、ボッチャ大会と並行して、前号にて結果発表を行った「20 周年記念写真コンテスト」の入賞作品を使用した記念品のカレンダーを作成し、利用者の皆さまにお渡ししました。

★「万葉の里オープンデイ」告知

10 月 8 日（日）13 時～ 15 時、国分寺市障害者センターにてオープンデイを開催します。利用者の皆さまと一緒に活動するプログラムや体験コーナーを設け、お待ちしております。

★令和4年度事業報告・決算報告

法人ウェブサイト上にて更新し、ご覧いただけるようになっております。
広報誌誌面と合わせて各事業の具体的な取組を見ていただくことができます。

ことのは
［通巻］第75号［発行日］2023年10月1日
［発行］社会福祉法人万葉の里　〒185-0024 東京都国分寺市泉町2-3-8　☎042-321-1212
［編集］（福）万葉の里 広報委員会　［制作協力］有限会社七七舎　［印刷］社会福祉法人ななえの里 ともしび工房
［発行所］特定非営利活動法人　障害者団体定期刊行物協会
〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷3-1-17 ヴェルドゥーラ祖師谷102号室　定価50円
（広報誌Wordテキスト版）